

press release

2013年12月5日

スタンダードチャータード 2014年世界経済予測 東の景気拡大、西の成長復活

スタンダードチャータード銀行(本店:ロンドン 最高経営責任:ピーター・サンズ/在日支店:千代田区 在日総支配人:クリストファー・ナイト)は、このほどロンドンにて「東の景気拡大、西の成長復活」(Rising East, emerging West)と題する経済レポート「グローバルフォーカス」2014年版を発表しました。同レポートは、2014年の世界経済成長率が2013年見通しの2.7%を上回る3.5%になると予測しています。その理由として、数年続いた景気低迷と低成長から抜け出した米欧経済の拡大基調を受けて、アジアやその他地域の新興国では10年間に及ぶ先進国を上回る経済成長がさらに続く見通しであることを挙げています。

世界経済概観

緩やかなインフレと低金利を背景とした欧米の景気回復は国際貿易の増加をもたらし、新興経済圏でも貿易依存率が高い諸国の景気拡張が予想されます。スタンダードチャータードでは、2014年の成長率は米国が2013年見通しの1.7%から2.4%へ拡大する一方、ユーロ圏が2年連続のマイナス成長からプラス1.3%に転じるとみています。新興経済圏は米国を含む先進7か国(G7)をほぼ4%上回る勢いで成長すると予測しています。

投資環境予測

世界景気の改善は、シンガポール・タイなどグローバル製造サイクルに深く組み込まれている外需依存型経済の国に最大の恩恵をもたらします。対照的に、インド・インドネシア・ブラジルなど内需主導型経済の国には向かい風となります。世界経済の成長は商品価格の持続的な回復にはプラス要因ですが、当行では2014年はこれまでの過剰供給の余波で、価格は上値の重い展開になると予想しています。

世界経済の成長見通しが外需依存型と内需依存型に及ぼす影響の違いを考慮すると、株式市場が債券市場をしのぐことが予想されますが、内需型と外需型の格差が相場に織り込まれてくれば、そうしたパターンは一様ではなくなる見通しです。

2014年は債券市場にとっては再び厳しい年となりそうです。保険・年金などの大量の国内資金の比率が高い債券市場は大きな影響を受けずに済みそうです。クレジット市場もまた大変厳しい年となるでしょう。高い経済成長率で企業の内部のキャッシュフローが改善し、ハイイールド債の幅広いアウトパフォーマンスが見込まれます。2014年の新興経済圏では選挙が目白押しで、政治情勢や規制環境についてのリスクが残ります。

景気回復の世界的な広がりで、米連邦準備理事会(FRB)は金融政策の正常化の着手が容易になります。FRBによる量的緩和(QE)縮小の開始時期について、当行は2014年6月という見通しを維持しています。

上半期は QE 縮小の決定を控えて市場の変動幅が大きくなる可能性があります、縮小が決まれば下半期の景気は拡大するでしょう。当行は FRB が金利引き上げに転じるのは 2016 年になると予想しています。

アジア

アジアに関する力強い成長予測は 2014 年も変わりません。欧米の景気回復を受けて、アジアのほとんどの諸国で景気拡大が予想されます。中国については、成長の原動力が大型公共事業・輸出から国内消費需要(内需)へのリバランスが徐々に進んでいることを示すかのように、7.4%前後という安定した成長率になると予測しています。当行は、中国当局が 2014 年に不動産市場・国有企業の改革を協力を推進し、それが資本勘定の一層の自由化と外国為替相場への介入の減少につながると期待しています。

東南アジア諸国連合(ASEAN)の加盟国は世界の製造拠点として中国に対する競争力を高めて、域外からの直接投資の増加が見込まれます。東南アジアの成長の原動力となっている都市化は前途遼遠で、インフラ整備・工業化の進展には多くの投資を必要としています。

アフリカ

サハラ以南アフリカは 2014 年も引き続きの世界最高水準の経済成長率を達成する見通しです。地域における例外は南アフリカ共和国で、国内需要の低迷が続きます。

中東

中東では、天然資源に恵まれた湾岸協力会議(GCC)諸国とエネルギーを輸入に頼らざるを得ない諸国との格差は 2014 年も変わりません。GCC 加盟国が短期的成長の達成と経済構造の多様化のために財政力を活用する一方、エネルギー輸入国は食料・燃料への政府補助金と低迷する投資が経済成長の妨げになっています。

当行マクロリサーチ部門グローバル責任者、マリオス・マラテフティスは次のように述べています。「景気回復はこれまで新興国に限られていましたが、2014 年には成長が幅広い地域に拡大すると予想しています。これは新興国にとっては良いニュースで、その成長率は引き続き G7 諸国を超える展開になるとみえています。しかし、先行きにリスクや問題がないわけではありません。FRB による量的緩和の縮小で大きな相場変動が予想されます」

詳細につきましては、以下の担当者までご連絡ください。

Shaun Gamble
Senior Media Relations Manager
Tel.: +44 20 7885 5934
Email: Shaun.Gamble@sc.com

Marios Maratheftis
Global Head of Macro Research
Tel: +971 4508 3311
Email: Marios.Maratheftis@sc.com

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行
コーポレート・アフェアーズ部
Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9333
Ca.Japan@sc.com

スタンダードチャータード銀行-アジア・アフリカ・中東地域における先駆者として

スタンダードチャータードはロンドン証券取引所、香港証券取引所、ムンバイ証券取引所、ならびにインド国立証券取引所に上場している国際的な金融グループです。世界で最もダイナミックな市場－アジア・アフリカ・中東地域において150年以上の歴史を誇り、グループの収益の約9割は、それらの地域で創出されています。また、世界約70カ国で1,700余のオフィスを有する当行は、国際的なキャリア構築の機会を総勢88,000余名の行員に対して生み出しています。当行グループでは、長期的視野に立った持続性のある事業構築に取り組む傍ら、高いレベルでのコーポレートガバナンスを保持すると共に、社会的責任を果たし、環境保護と多様性のある人材育成にも力を注ぐことで、世界中の信頼を得ています。私たちのブランドプロミスである「Here for good」は、このような当行の伝統と企業価値を反映しています。

日本におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜に初めて駐在員事務所を開設した1880年にさかのぼり、今年で132年目を迎えます。アジア・アフリカ・中東地域で投資事業を展開する日本の企業法人・金融法人のお客様向けに、多岐にわたる金融サービスを提供し、さらなる成長を続けています。

スタンダードチャータードグループHP(英語) www.standardchartered.com

スタンダードチャータードグループfacebook(英語) www.facebook.com/standardchartered

スタンダードチャータードグループTwitterアカウント @StanChart

スタンダードチャータード銀行在日支店HP(日本語) www.sc.com/jp

スタンダードチャータード銀行在日支店 HP(英語) www.sc.com/jp/en/